

4-②. 北区事務所での活動支援

— 2012年12月末で、大阪市北区同心での30年間の活動支援に終止符。

30年に渡り、市民活動団体の活動拠点となってきた北区事務所は、「会場利用登録」団体と「パートナー登録」団体の35団体のうち希望団体に対して活動拠点の支援を行ってきた。ところが、大家である大阪市の市政改革のあおりを受けて、2012年11月末をもって会議室部分を返却しなければならず、12月末をもって北区事務所を閉所するという苦渋の決断を行った。2012年度は12月末までの8ヶ月間に、670件の会場を提供した。なお、2012年3月末には大阪NPOプラザを閉所し、新事務所に移転することから、12月以降は、希望する団体に大阪NPOプラザを代替機能として提供した。

1. 会場利用登録団体への支援

2012年度に北区事務所（大阪市北区同心1）で会場・備品を利用した団体は、「会場利用登録」27団体、「パートナー登録」8団体であった（会場・備品利用を希望しない「パートナー登録」団体を除く）。利用団体の約4割がセルフヘルプグループという特徴があった。

表4-1 北区事務所での活動支援内容

項目	内容
利用可能時間	火・木曜日 13:00～20:45、水・金曜日 10:00～17:00、土曜日 10:00～20:45
登録種・登録料	会場利用登録料（年度=5,000円） ※パートナー登録料（年度=10,000円）でも利用可能
会議室の提供	会議室3部屋+フリースペース・事務所スペースの提供※会議室利用協力金（1回=500円以上；従来の300円から11年度に値上げ）
備品の貸出・提供	備品（マイク・アンプ、プロジェクター、ビデオ、OHP、スクリーン、CDラジカセ、演台、点字版・点字タイプ、トランシーバー、名札、専門図書等）の貸出（使用料無料）。 コピー・印刷機、紙折り機の提供（使用料無料、ただし消耗品実費分は負担）
ロッカーの提供	ロッカー小（年度=1,000円）・ロッカー大（年度=3,000円）の提供
事務局機能の支援	レターケースの貸し出し、郵便物・荷物の受け取り、電話の取り次ぎなどの支援
事務スペースの支援	大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会の2団体には、コーディネーション活動を行うための専用電話の配線（機器、回線使用料は団体負担）を認めるとともに、事務スペースの支援を行った。 ※事務スペース利用料金を個別に設定
その他	ボランティア情報や講座・イベント情報の広報協力、「THE ボラ協」の無料送付、市民活動総合情報誌『VoLo(ウォロ)』の年間購読料の半額割引 など

表4-2 北区事務所の利用状況（下欄（ ）は昨年度実績・件）

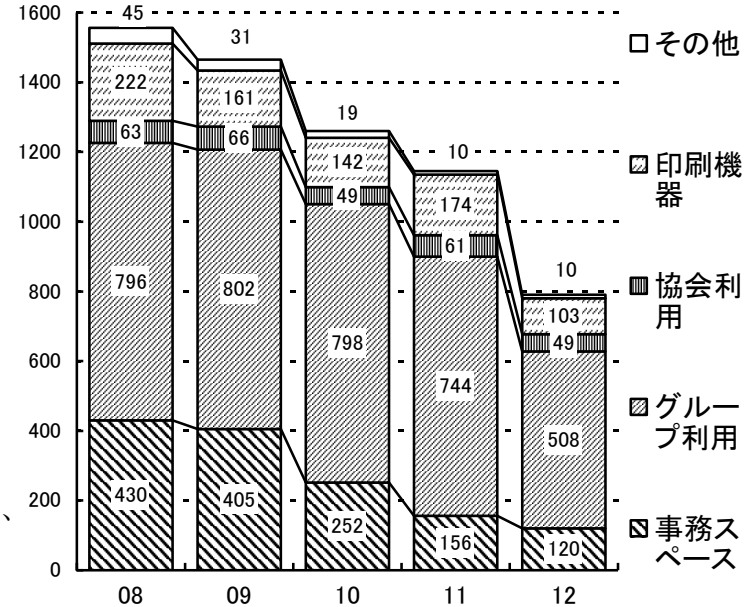
	会場利用	印刷機器	ビデオ他	合計
件数	557件 (961)	103件 (174)	10件 (10)	670件 (1,145)

※ 登録団体には無償でレターケース17台を貸し出し、小ロッカー25台、大ロッカー8台を有償貸与した。

コーディネーション活動に取り組む2団体（大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会）には、事務スペースの使用を支援した。2団体の事務スペース利用は年間120日にのぼった。また一般の市民活動団体の会場利用は508件、大阪ボランティア協会の事務局利用は49件であった。

12月閉所のため、事務所稼働期間が9ヶ月間であったこと、利用団体が活動場所を他の施設へ移動したことなどから両実績は前年より大きく減少した。

図4-3 北区事務所での会場・備品類の貸出状況



2. 会場利用登録団体の状況

12年度の会場利用登録団体27団体の状況を以下に示す。（代表者名は2012年度の登録時点、敬称略、50音順）

グループ・団体名	代表者	活動内容
A A オア シス グループ	則包 隆司	無名のアルコール依存症者を対象に毎週土曜日夜にミーティングを実施。

AA関西ヤングミーティング	和泉 亮	アルコール依存症者を対象に毎週木曜日の夜にミーティングを実施。
AAリバーグループ	金光 秀晃	飲酒をやめたい願いをしている人を対象に、毎週火曜日夜にミーティングを実施。
ACODA12ステップミーティング	リボン	アダルトチルドレンを対象に、「言いつばなし、聞きつばなし」の分かち合いを行っている。毎月第2・4土曜日夜に実施。
ACODAROSEZ	松下	アダルトチルドレンを対象に毎週土曜日夜にミーティングを実施。
青山正さんと共に歩む会	森 修	障害者である青山正さんの生活介助・支援を通して知的障害者の地域での生活を考える。毎月第4火曜日夜に会議室を利用。
あじさい会	岡本 敏子	視覚障害児が楽しめる「さわる絵本」を作り、市立盲学校の文化祭に展示、府立盲学校の訪問読み聞かせを実施。毎月第2・4木曜日に会議室を利用。
EATAMAGROUP	麗華	気分障害の人々の言いつばなし、聞きつばなしのオープンミーティング。ステップミーティング等を実施。
NAナルティールグループ	—	薬物依存症者を対象に土曜日夜にNAミーティングを実施。
大阪交通遺児を励ます会	青木 勝	交通遺児家庭への精神的支援。また、交流会や機関誌の発行。交通事故防止運動にも取り組む。
大阪市都島断酒会	樋口 和夫	アルコール依存症本人、家族及び予備軍を対象に毎週水曜日ミーティングを実施。
大阪市シルバーアドバイザー連絡協議会	辻 昌久	シルバーアドバイザー養成講座終了後、その後の資格、技能を生かし、幼児から高齢者を対象に活動を行う。月2回程度不定期。
大阪手びきの会	三木さと子	視覚障害者の外出介助。北区事務所内に事務局を置き、ニーズ調整。
大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会	松本 勉	シルバーアドバイザー養成講座の修了者で構成され、資質の向上のために努めることを目的に毎月第1、第3木曜日に理事会、役員会を実施。
おはなしグループ綿の花	小西萬知子	絵本から遠くにいる子どもたちに、絵本の読み聞かせやお話を届ける活動及び、技術向上のための講座の実施。毎月第4金曜日午前に会議室を利用。
高齢者福祉スタッフ情報交換&交流会	大門 秀幸	高齢者福祉に関わる職員の方々による、情報交換・ネットワーク作り・施設見学会企画などを行う。
SAD（社交不安障害）自助グループ かぼちゃ畑	かーる	SAD（社交不安障害）の当事者が集まり、意見・情報交換などを行う。ミーティングは月1回程度実施。
さわる絵本連絡協議会・大阪	小西萬知子	視覚に障害のある子どもや親のための絵本の製作と普及・よみきかせ会開催。
特活）シルバーアドバイザー・ネット大阪	三田 進一	大阪府下を活動範囲として①伝承おもちゃづくり事業部②おもしろ算数教室事業部③国際交流事業部④介護福祉事業部が年間を通して事業を実施。
DAN会（団塊アクションネットワーク会）	尾崎 力	団塊世代がこれまでの経験、知識、技術を活用し、自らが社会的なアクションを起こすことを目的。主に月一回土曜日。読書会、フィールドワーク。
中卒・中退の子どもをもつ親のネットワーク	河地 敬子	不登校、高校中退、ひきこもり、ツッパリなどの子どもの親が第2・第4木曜日に集って、お互いの交流・情報交換などを実施。
点訳サークル「ふみ」	松木公美子	社会人を対象に隔週火曜日に点訳文書の作成を行う。
トミの会	中村 静	会員各自がそれぞれの地域で活動。年2回福祉施設の見学、会員相互の研修会、各地域・個別のボランティア活動、その他の情報交流を実施。
なにわ語り部の会	鏑 栄美子	小学校、図書館他、各種福祉施設などへの語りのサービスに出る。例会では会員間で研修及び各種情報交換・交流。
走ろう歌おう大運動会	乾 純一	障害者及び社会福祉に対して正しい認識を持ってもらうため、運動会やレクリエーション、学習会を通して障害者と健常者の交流を図る。
ひだまり	石田カズヤ	人と接することが苦手で引きこもっている人やうつ等の心の悩みを抱えた人達を対象に毎週土曜日昼に例会を実施。
プチ大阪兄弟姉妹会	金原 光成	精神障害者を「きょうだい」にもつ兄・弟・姉・妹の立場で集い、障害者との接し方や情報交換を目的とし、毎月第1・3土曜日に会議室利用。

※「パートナー登録」団体（別掲）のうち、北区事務所では会場・備品を利用した団体は8団体〔(特活)おおさか行動する障害者応援センター、大阪市難聴者中途失職者協会、(特活)大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪帆船と国際交流の会（SAIL‘O’）、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、くつろぎステーションつばさ、手話サークル「つくし」〕である。

3. 北区事務所閉所に伴う取り組み

（1）意見交換会の実施

2012年夏に急遽浮上した北区事務所の閉所について、9月と10月に各2回の日程で、意見交換会を実施した。

（2）北区事務所閉所に伴う余剰什器備品の譲渡会の実施

北区事務所で使用した事務機・イス、長机、イス、ロッカー等使える什器備品を関係団体に提供する譲渡会を行った。

（3）大阪NPOプラザを北区事務所と同条件で3月まで開放

2012年12月から新拠点開設までの間は、大阪NPOプラザを北区事務所の代替施設として開放した。